



みのる法律事務所
第 2 9 6 号
平成 2 6 年 1 2 月

みのる法律事務所
弁護士 千田 實
〒 021-0853



岩手県一関市字相去 57 番地 5

TEL : 0191-23-8960

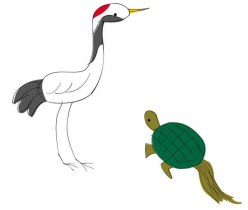
FAX : 0191-23-8950



みのる法律事務所 <http://www.minoru-law.com/> [✉ minoru@minoru-law.com](mailto:minoru@minoru-law.com)



長生きを楽しむコツ その7 — 解放金を楽しむ



○ 解放金とは

わずかでも 捨てるが如く 使いたし
そんなお金が あれば楽しく♪
平成 2 6 年 1 0 月 1 0 日



年金受給額は、標準世帯で月約 2 1 万 8 , 0 0 0 円というデータを見ました。アベノミクスで、大企業は景気が回復したとしても、物価が上がり、消費税が上がっては、年金生活をしている年寄りにはたまりません。

毎月決まって入ってくる金は、食費、光熱費、医療費等々、行き先は決まっています。そこに振り分けてしまうと、残はありません。足りないくらいです。大企業は景気がよくても、株価が上がっても、年金生活をしている身には何のメリットもなく、余裕など生まれません。

臨時収入のように少々収入が多めにあっても、あればあったで行き先ができ、そこにも振り分けたら、残は出ないのです。必ず用途があるのがお金です。万が一に備えて、少しでも残しておきたいと思います。保険もかけておきたいと思います。

「御足^{おあし}」とはお金の別称です。押さえつけておかなければ、足がついていきますから、どこかへ勝手に行ってしまうのです。「捨てるが如く使える金」など、出てくるはずはありません。

そこで、金が入ったら、まずはじめに入金額の 1 0 % でも 5 % でもまず削^{けず}ってしまい、ないものとして押さえってしまうのです。足が付いてどこかに行く前に、押さえつけてしまうのです。その残を必要な支払いに振り分けるのです。

削って、押さえていた分は、捨てるが如く使いたいのです。「捨てるが如く」というのは、どうしても払わなければならないというイヤイヤ義務で払うので

新・憲法の心、黄色い本、いなべんの本は、出版社・株式会社エムジェエムの他、下記書店でも好評発売中です。

宮脇書店気仙沼本郷店 〒988-0042 気仙沼市本郷 7-8 TEL: 0226-21-4800
[amazon.co.jp](http://www.amazon.co.jp/) <http://www.amazon.co.jp/> ~ 送料無料 ~



はなく、「払わなくともよいが、『やってやりたい』という一心で使うもの」です。これを「解放金」と呼ぶことにします。

解放金というと、人質を解放してもらおうための金のように思われますが、ここで言う「解放金」は、「解放日」と同じような使い方です。「何に使ってもよい金」という意味です。「制約から解放された金」という意味です。

解放金は、孫に使いたいのです。お世話になっている方に使いたいのです。「解放日」を、「解放弁当」を楽しむように、少しだけでも年金を「解放金」として楽しみたいのです。

○ 使う楽しみ

「制約を楽しむ」ということは、「解放を楽しむ」ということです。ほとんどの金は行き先が決まっていて、自由に使えない制約のある金です。ほんのわずかな金を、その制約から解放し、自由に楽しく使う解放金にした方がよい、と提案したいのです。それが人生を楽しむコツなのです。

解放金は、「いつ、誰のために、何のために使おうか」と考えただけでワクワクしてきます。おもちゃ屋で、孫と一緒に孫の欲しい物を物色するのは最高です。「ジッチ、ありがとう♪」などと言われると、メロメロです。

おもちゃ屋に行く前から、「今日はおもちゃ屋に行くぞ！」と声を掛け、「やったー！」と飛び回る孫の姿を見るのは年寄りの特権です。家に帰って、買ってきたおもちゃで孫と遊ぶひとときもまた年寄りの特権です。孫と楽しい時を持つのも、解放金のお陰です。

いつも世話をしてくれる人に、「気持ちです」と心ばかりの品を添えてお礼の言葉を言えるのは嬉しいことです。フランスでは、「気持ちは言葉だけでは伝わらない」というような諺があると読んだ記憶があります。

言葉だけでお礼を言うより、物を添えた方がありがたさが伝わります。もらう方だけではなく、礼を言う方としても楽しくなります。物を添えるためには、いくらかでも金が必要です。そのための解放金でもあるのです。

○ 稼ぐ楽しみ

解放金の捻出方法は、決まった収入の中で、出すものを削ってひねり出すやり方があります。このやり方は、ややネガティブ（消極的）ではありますが、「捨てるが如く使う金を捻り出すのだ」と考えれば、楽しくなります。長い間働き続け、掛け続けた年金です。少くくらは解放金とすることが許されます。

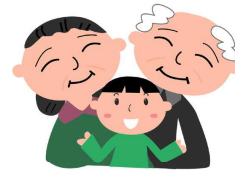


ポジティブ（積極的）なやり方としては、年金だけをあてにしないで、解放金を自らの手でつくり出すというやり方があります。解放金を稼ぎ出すのです。解放金のため、もう一度働くのです。金額にこだわらずに、解放金をつくる範囲で働くのです。捨てるが如く使う金は、多額であるはずはありません。少し働けばいいのです。

自分の体力、能力、家庭環境など諸般の事情を総合的にあれこれ考えあわせ、楽しくやれる範囲で解放金を稼げばいいのです。「解放金を得る」という楽しみの他に、「楽しく働く」という副産物まで生まれる可能性があります。楽しく働いていけば、仲間ができ、人間関係が生まれます。さらに副産物が生まれます。

「あの人のために解放金をつくろう」という気持ちになるだけで、人生は楽しくなるのです。わずかな金額の「解放金」という考え方が、長生きを楽しむ重要なアイテム（道具）となるのです。解放金という考え方は、ポジティブ（積極的）な姿勢なのです。

○ 金のない人ほど楽しめる



力む必要はないのです。少しだけでいいのです。捨てるが如く使える金が有り余るほどある人はいません。仮にそういう人がいたとしても、そういう人には「解放金を楽しむ」ことはできません。解放金はわずかでいいのです。わずかを楽しむのです。わずかな解放金を針小棒大にして楽しむのです。

「解放金を楽しむ」ということは、「制約を楽しむ」ということです。制約がないほど金があってはできないことなのです。解放金を楽しむことができるのは、金がない人ほどできるのです。いつも金に困っているから、解放金の楽しさがより実感できるのです。解放金の楽しさは倍増するのです。そういえば、「金がない方が幸せ」ということになります。

「解放金を楽しむ」という考え方は、制約によって壺の中に閉じ込められているような不自由な一生の中で、その制約を楽しみ、人生を楽しむためのコツの1つなのです。食事療法中の「解放日」と同じです。それがあただけで人生が楽しくなるのです。

「四苦八苦」の人生の中で、楽しく生きるためのアイテム（道具）は些細なものです。「解放弁当」だったり、「解放金」なのです。人生における楽しみは、ほとんどそういう些細なことなのです。天と地を揺るがすような楽しみなどないのです。

食事は食べ放題でき、金は使い放題できる人には、「解放日」も「解放金」も味わえないのです。幸いにも制約があることに感謝し、それを取り上げ、針小棒大に楽しむのです。人生を楽しむということは、そういうことです。



○ 解放金は宝船



考え方、心の持ち方によって、四畳半は「大宇宙」に変わります。縄文時代にも、江戸時代にも、100年先の未来にも行けるのです。取り上げる値打ちがないと思えるわずかな解放金が、人生を ✨ 金銀財宝満載の宝船 ✨ に変えるのです。

解放金は、可愛い孫のため、いつも世話になっている人のために使うのですが、ほんの些細な土産物でも「ジッチ、ありがとう」と満面の笑顔で言われたときは、「生きててよかった♪」と思います。

いつも世話になっている人を観察し、「何が好きか」を見つけ出し、プレゼントする。「本当はこれがほしかった」とか、「これは大好物だ」などと言ってもらえれば、「やった！」という気になります。解放金は、人生を楽しむアイテム（道具）としての役割を十分に果たすことになるのです。

金がないことを嘆くより、わずかしかな金をもどくようにして楽しむかを考えた方が、楽しい人生となります。年を取ると、体力がなくなり、食欲がなくなり、残された時間もなくなってきました。ないことを嘆いていたら、楽しさなど湧いてきません。工夫が不可欠です。解放金は、その工夫の1つです。



《 発行のご案内 》



年寄りのための童話 第1巻

『長生きを楽しむコツ その巻 一総論一』

『長生きを楽しむコツ』も今回で7回となりました。これまでの6回分は思いのほか好評でした。調子に乗りました。この事務所便りで述べていることは、各論部分ということになります。これからも各論部分はどんどん書くつもりです。

そこで今回、「どのような基本的スタンスでこれを書いていくつもりなのか」について、総論部分として発行することにしました。年末には発行の運びとなります。お金を取って読んでもらうような代物ではありません。それは百も承知なのですが、図々しく「購買申込書」を同封させていただきます。

私が年末年始の御礼として述べたいことは、この第1巻に尽きていると思います。ここで述べているようなことをくどくど申し上げたいのです。そして、

ありがたや あゝありがたや ありがたや
巡り会えた いい時 いい人

という思いを知ってほしいのです。

本当に今年1年もお世話になりました。
来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

